平成２８年　１０月　３日

平成２８年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立鬼怒中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。
こうした考えから，平成２８年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。
また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し，児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに，各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより，本県児童生徒の学力向上に資する。

2　調査期日

平成28年4月19日(火)

3　調査対象

小学校　第４学年，第５学年（国語，算数，理科，質問紙）
中学校　第２学年　　（国語，社会，数学，理科，英語，質問紙）

4　本校の実施状況

第２学年　国語　１７５人　　社会　１７４人　　数学　１７５人
　　理科　１７４人　　英語　１７４人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年，実施教科が限られていることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

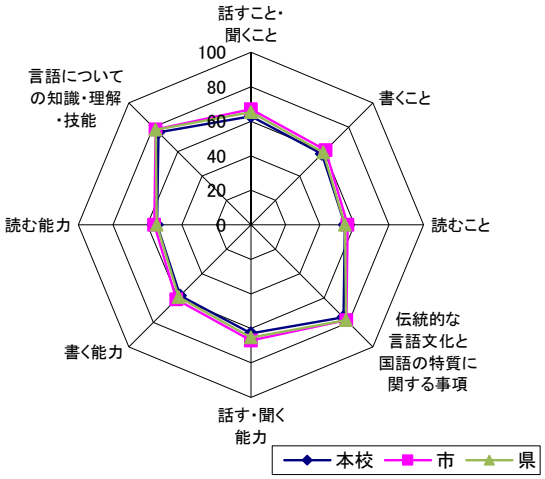
(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立鬼怒中学校 第２学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	62.9	67.0	65.3
	書くこと	58.0	61.1	59.2
	読むこと	54.4	56.0	54.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.7	78.2	78.0
観点	話す・聞く能力	62.9	67.0	65.3
	書く能力	58.0	61.1	59.2
	読む能力	54.4	56.0	54.5
	言語についての知識・理解・技能	75.7	78.2	78.0



★指導の工夫と改善

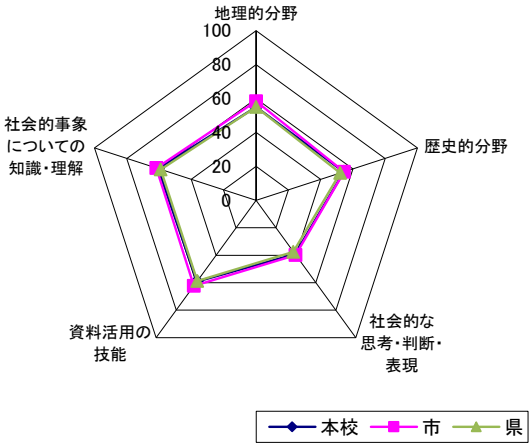
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○自分の考えとの共通点や相違点を整理して聞く問題では、正答率が県平均を上回っている。 ●話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをまとめる問題では、正答率が県平均を大幅に下回っている。 ●司会者の話し合いの進め方の工夫についての理解を問う問題で、正解率が県平均、市平均より下回っている。	・人の話に真摯に耳を傾ける態度と雰囲気を醸成する。 ・学習活動の中で、人の話に対して意見や考えを持ち、それを言葉にする練習をくり返し行う。 ・学習活動の中に、聞き取りや話し合いの時間を意図的に設定し、司会者の経験をさせ、進め方の工夫について理解させる。
書くこと	○目的に応じて文章を推敲する問題では、正答率が県平均を上回っている。 ●文章の書き方の工夫について記述する問題では、正答率が県平均・市平均を下回っている。	・授業の中で、書く時間を多く設定し、自分の意見や考えを文章にする練習を行う。 ・文章を書く時間の後に、書き方の工夫について意見交換をし、推敲する練習をくり返し行う。
読むこと	○文学的文章の読解では、描写を踏まえて登場人物の心情を捉える問題において、正答率が県平均を上回った。 ○説明的文章の読解では、文章の表現の特徴を捉える問題で、正答率が県平均・市平均を上回っている。 ●文章中で用いられている語句の、文脈上の意味を理解し、適切に使用する問題では、正答率が県平均・市平均を下回っている。 ●文学作品の表現の特徴を捉える問題では、正答率が県平均・市平均を下回っている。	・授業の中で言葉の意味を確認する時間を増やすとともに、分からない言葉に関しては、辞書を引いて意味を確認する習慣をつけさせる。 ・読書の機会を増やすとともに、様々なジャンルの本に興味を持たせるよう読書指導を行う。 ・文章構成をしっかりと押さえた授業をする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字の読みに関する問題の正答率は、おおむね県平均と同等である。 ○文を文節に分ける問題では、正答率が県平均・市平均を上回り、文の分け方についての知識が身に付いていると考えられる。 ●漢字の成り立ち（会意文字）の問題は、県平均・市平均を下回り、知識が定着していないと考えられる。	・小テストを定期的に実施し、漢字の成り立ちについての知識の定着を図る。

宇都宮市立鬼怒中学校 第２学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理的分野	55.0	58.4	55.0
	歴史的分野	54.4	54.6	52.2
	社会的な思考・判断・表現	39.1	39.8	37.5
	資料活用の技能	59.1	62.3	58.7
	社会的事象についての知識・理解	60.6	61.7	59.0



★指導の工夫と改善

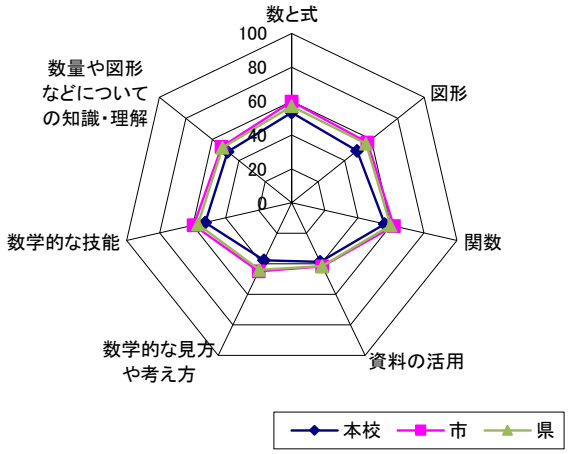
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	●平均正答率は、県と同じ55.5%であるが、市の平均を下回っている。 ○「赤道と本初子午線の交わる位置を読み取る」設問では県や市の平均を上回り良好である。 ○アフリカ州に位置する川の名称や北アメリカ州に位置する山脈の名称への正答率が県や市の平均を上回り良好である。 ●「世界各地の人々の生活と環境」「世界の諸地域(アフリカ)」に関する内容では、市の平均を5%下回っている。 ●複数の資料からアフリカの経済における課題、アメリカの農業の特徴を考察する設問への無回答率が、県や市の平均を下回っている。	・大陸や海洋の形、主な山脈、河川などの位置関係や名称などポイントを確認し、地図や地球儀の問題が的確にできるように指導していく。 ・棒グラフから特徴を読み取る問題に対して、苦手意識が強く無回答率も高いので、数学科と連携をとり、補充していく必要がある。 ・グラフを読み取る力が弱いので、毎日の授業でもグラフの読み取りを意識して指導していく。
歴史的分野	●平均正答率は54.4%で、県よりも2.2%上回っているが市の平均には至っていない。 ○「邪馬台国の女王の名称がわかる」「足利義満によって始められた明との貿易の名称が分かる」「中世に活躍した人物を年代の古い順に並べ替える」をいった設問において、県や市の正答率を9～10%上回っていて大変良好である。 ○社会的な思考･判断･表現を問う設問において、県や市の平均を上回っている。 ○時代別に見ると、鎌倉時代～室町時代の設問への正答率が良好である。 ●年表の表し方、各時代の特色、歴史上のできごとと場所を関連づけた設問への正答率が県や市の平均より下回っている。	・歴史への興味は高いが、基本的な語句の定着が十分とは言えないので、毎時間の復習に力を入れていく。 ・普段の授業から年表に親しませ、歴史の流れを大観する力を育てていくとともに、都道府県や主な国の場所を完全に覚えさせることを意識していく。 ・記述問題については、重要ポイントを押さえて文章化する学習を取り入れ指導していく。

宇都宮市立鬼怒中学校 第２学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	53.3	59.8	57.0
	図形	49.3	57.1	56.1
	関数	56.3	61.8	59.8
	資料の活用	38.7	41.6	41.4
観点	数学的な見方や考え方	37.7	44.9	43.9
	数学的な技能	52.4	59.4	56.8
	数量や図形などについての知識・理解	48.3	53.0	52.3



★指導の工夫と改善

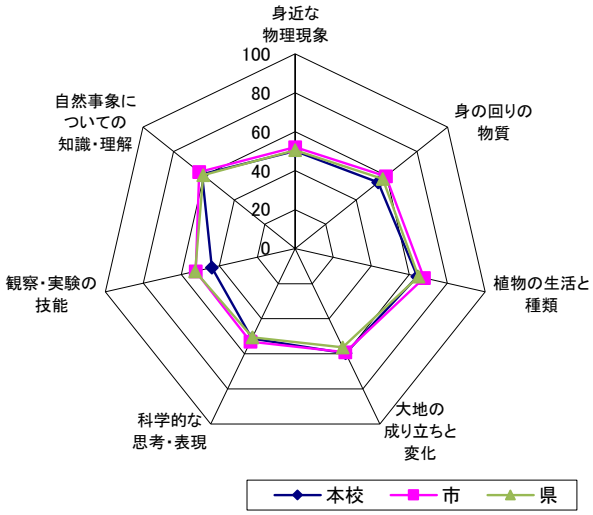
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○正の数、負の数、1次方程式の基本的な計算は、県平均とほぼ同程度できている。 ●文章から立式するのが苦手である。	・計算練習を繰り返し行い、基礎基本の定着を図る。
図形	○立体的な図形の表面積や体積を求める計算は、県平均と同程度できている。 ●図形の移動や作図の理解が不十分である。	・図形の移動や作図などの操作活動を授業で多く取り入れ、図形に関する理解を深める。
関数	○比例や反比例の関係にあるものを探す問題では、県の平均を上回っていた。 ●比例や反比例の関係をyとxを使った式にすることが苦手な生徒が多い。	・グラフ、表、式のそれぞれのつながりについて理解を深めさせる。また、xとyの組み合わせから関数の式を求める練習を行う。
資料の活用	○相対度数を求める計算が県平均を上回っていた。 ●階級値や最頻値などを求める計算は県平均を大きく下回った。	・中央値や最頻値のような代表値の求め方が理解できるよう。問題練習を行う。

宇都宮市立鬼怒中学校 第２学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	50.1	52.1	50.5
	身の回りの物質	54.5	59.6	57.4
	植物の生活と種類	64.3	67.8	64.9
	大地の成り立ちと変化	59.7	59.1	56.3
観点	科学的な思考・表現	51.2	53.1	50.6
	観察・実験の技能	43.9	52.4	52.7
	自然事象についての知識・理解	61.2	63.1	60.5



★指導の工夫と改善

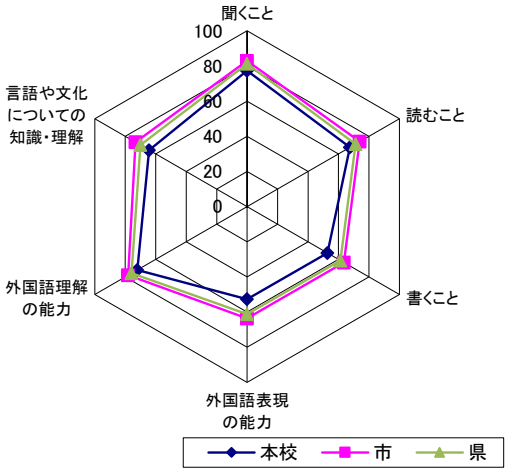
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	●光と音の単元全般について正答率が低い。 ●音の大きさと高さの説明の記述では県、市とほぼ同じで　はあるが、他の問題に比べて正答率が20点台と低い。	・実験を行った後のまとめで作図やオシロスコープの波形について問題演習を行い、知識・理解の定着を促す。 ・音の大きさ・高さを日常的に使い分けることがあまりなく、実験の中にオシロスコープの波形を使って、自分が聞いた音の比較と波形が結びつくようにする。
身の回りの物質	●質量パーセント濃度、密度の測定、溶解度などの数値を求めたりグラフや表から必要な数値を見つけることが苦手で計算自体を敬遠する傾向がある。 ●ガスバーナー、メスシリンダーの使い方では、実験では正しく扱えるが、文章になると順番の中で迷う部分が見られる。	・計算などでは段階的に解くようなワークシートを宿題や授業で行い解き方が理解できるようにする。 ・実験を行うときに操作の順番を何度も確認する。また、使用する回数も増やす。
植物の生活と種類	●顕微鏡の操作の順番では迷う部分が見られる。	・授業で、なぜその順番で扱うのかを説明し理解できるようにする。
大地の成り立ちと変化	○火山・地震についての知識・理解は正答率も高く、仕組みに付いていると思われる。 ●柱状図からの推測は問題演習をほとんど行っていないので、読み取りのポイントがわからなかったように思う。	・火山・地震の授業では多くの例を挙げて学習する。 ・柱状図を学習するときに推測できることを例を挙げながら作業するなど体験させる。

宇都宮市立鬼怒中学校 第２学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	77.3	82.9	81.2
	読むこと	67.5	73.9	71.2
	書くこと	52.7	63.6	61.2
観点	外国語表現の能力	52.7	63.6	61.2
	外国語理解の能力	72.1	78.1	75.9
	言語や文化についての知識・理解	64.3	73.2	70.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○対話文の聞き取りに関しては正答率が昨年度より18．4ポイント上回った。また、他の領域よりも市や県の平均値に近い。 ●対話文の聞き取りと応答、まとまりのある英語の聞き取りに関する問題では、正答率が市、県の平均よりも下回っている。	・継続的に対話文やまとまりのある英文の内容を聞く機会を増やす。 ・会話活動を多く取り入れ、英語の音に触れる機会を増やし、聞き取りの力を伸ばすきっかけにする。
読むこと	○対話文や長文読解の正答率が昨年度よりも6．4ポイント上回った。 ●まとまりのある英文の内容を読み取る問題では、正答率が昨年と同様に市、県平均よりも下回った。	・まとまりのある英文を読む機会を増やし、英語の文に慣れさせる。 ・代名詞の指す内容など、読み取りのポイントを示し、必要な情報を読み取る能力を伸ばす。
書くこと	○自分の好きな季節について英文にしたり、スポーツに関しての応答文など身近なことについての書く力はある程度身についている。 ●疑問詞を用いた語順理解の問題や内容につながりのある3文以上の英文を書く問題、自分の考えを説明する問題などについては、正答率が市、県の平均を大きく下回った。	・日頃から英文を書く機会を多く設け、英作文を書く習慣を身につけさせる。細かく添削し、文法の力を伸ばす。 ・自分の考えを書くことで表せるように、様々な表現や語彙を指導し、生徒たちの表現の幅を広げる。

宇都宮市立鬼怒中学校 第２学年生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「先生は学習のことをほめてくれる」「自分には、よいところがあると思う。」「自分の行動や発言に自信をもっている」に対する肯定率は市・県を上回っている。今後も自分自身に肯定感が持てるような取組を続けていく。

○「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい。」「地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある。」「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している。」に対する肯定率は市・県を上回っている。今後も自分自身で考え行動する姿勢が身につくようにしていきたい。

○「クラスは発言しやすい雰囲気である。」「学級活動の時間に、友達同士で話し合ってクラスのきまりなどを決めていると思う。」に対する肯定率は市・県を上回っている。今後もクラスの雰囲気を高め、生徒がいきいきと生活できるようにしていきたい。

○「家で計画を立てて勉強をしている。」「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている」「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いている。」に対する肯定率は市・県を上回っている。今後も家庭での学習に計画的に取り組めるような指導を継続している。

○国語、社会、理科、道徳、総合的な学習、学級活動が「好き」と答えた生徒の割合は市・県より上回っている。

●「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている。」「授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）をまとめて書いている。」に対する肯定率は市・県を下回っている。授業の目標（めあて・ねらい）をはっきりさせ、授業の最後に学習内容の振り返りを行うことをどの教科でも行い、学習効果を高めていく。

●「家で、学校の授業の予習をしている。」に対する肯定率は市・県を下回っている。予習をすると効果が高まる学習内容について生徒に伝えていく。

●数学、美術、技術・家庭、英語が「好き」と答えた生徒の割合は市・県より下回っている。
●数学、英語の「授業の内容がよくわかりますか。」に対する肯定率は市・県を下回っている。